



Contents

2022年度CODE基本方針	1
特集：ウクライナ避難民支援	2
2021年度事業報告、 2022年度事業計画	8
プロジェクトレポート	9
CODE未来基金NEWS	10
イベントレポート	11
スタッフ活動記録・今後の予定	14
会員・寄付者ご芳名	15
活動へのご協力をお願い	16

2022年度CODE基本方針「分断ではなく連帯を」

2015年、国連は持続可能な開発目標 (SDGs) を採択し、貧困、飢餓、平和、ジェンダー、教育、環境などの17のゴールを世界共通の目標として課題解決に取り組んできた。だが、5年を経た2020年、新型コロナウイルス感染症がパンデミックを引き起こし、SDGsの取り組みは大きく後退し、再考と変容が求められた。2030年までの残りの時間は「行動の10年」と言われ、より一層の取り組みが問われている。

加えて、国内においては全国で地震が発生しており、南西諸島周辺では海底火山の爆発も続いており、不気味な事態である。そして世界は混とんとしており、2021年、ミャンマーでは国軍によるクーデターが起き、抗議もむなしく今も多く市民が弾圧され続けている。アフガニスタンでは米軍撤退を機にタリバンが全土を制圧し、国外へ退避した人と国内の残らざるを得ない人たちとで分断が起き、人口の半数にのぼる1,800万人(内1,300万人は子ども)が人道的援助を必要としているという想像を超える深刻な事態が続いている。そして2022年、ロシア軍によるウクライナ侵攻が起きた。世界は戦争を止める事が出来ず、今も多く市民が犠牲になっている。ウクライナの国内外の避難民は1200万人に上るが、母国に失望したロシア人388万人が出国している事も忘れてはならない。ウクライナが善、ロシアが悪という単純な見方でいいのだろうか。一方で世界は分断へと進み、連帯がそがれている事にも注視しなければならぬ。

近年、世界で紛争やテロが噴出し、感染症が今も猛威を振っているが、これらを災害とみなし、そこに苦しむ人たちが

大きな支援から取りこぼされる人たちがいるのであれば、私たちCODEは、その人たちに手を差し伸べなくてはならない。

2021年、コロナ禍の中でもCODE未来基金の若者たちは、農業フィールドワークや難民セミナー開催など積極的に活動した。丹波でのフィールドワークでは農業を学ぶ中で、学生たち自身が食の安全や自然、災害、国際協力などへと理解を広げていった。また、丹波の有機野菜を神戸の子ども食堂や在住外国人へ届ける事で、足元で起きているグローバルな問題にも気づき、身近な事として考えるきっかけにもなった。高校生の時から未来基金で活動している大学生は、夢や希望を失いつつあるアフガニスタンのカウンターパートの若者のメッセージを読み、「置かれている状況は全く違うが、どこか自分たちと共通している」と日本の現状と未来への不安を語った。今、未来基金の若者たちは、世界で起きている事を自分に引き寄せて考え始めている。このような地道な積み重ねが次の時代を創っていくのだろう。

CODEは、阪神・淡路大震災以降、「最後のひとりまで」を理念に常に取りこぼされる少数の人たちへのまなざしを大切にしてきた。世界が分断や排除へと向かいつつある今だからこそ、改めて被災地KOBÉが培ってきた支え合い・学び合いの精神を次世代に伝え、共に最後のひとりまでを救うことを改めて心に刻みたい。さらに最大の災害と言える戦争だけは絶対に止めなければならない。そのためにも対話と交渉をあきらめずに続けることを願う。

(CODE事務局長 吉椿雅道)

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

私達に、できること ～ウクライナ避難民支援～



【テルノピリから日本に避難された家族】

避難民の状況

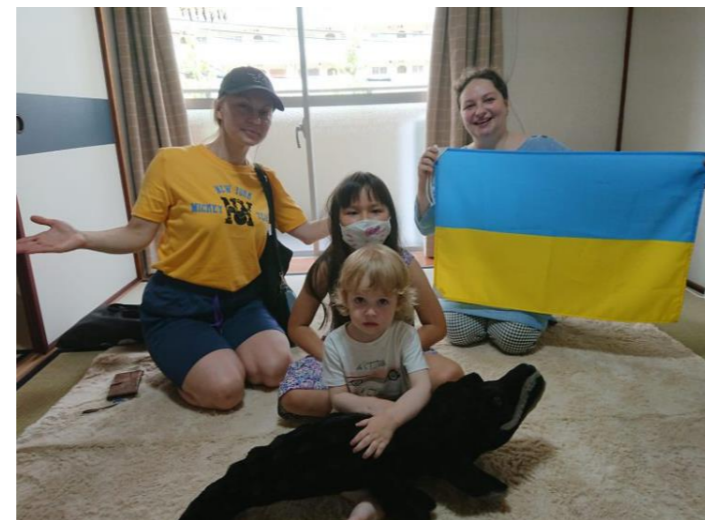
現在、日本に入国したウクライナからの避難民は、2158人(2022/11/30 出入国管理庁)となっています。都道府県別には、東京545人、大阪154人、神奈川県139人、福岡122人、兵庫105人、千葉95人、愛知80人という状況になっています。

CODE事務局のある兵庫県には、神戸市、尼崎市、芦屋市、宝塚市などに105人の方が避難してきています。兵庫県や神戸市は、住宅の無償提供や就労斡旋、生活費などの現金支給などの支援を行っています。

CODEの取り組み

CODEは、2022年5月から「MOTTAINAIやさい便」と称して、規格外の有機野菜を安価で提供してもらい、それをウクライナの避難民の方々に無償で提供しています。CODEは、これまでに神戸市内に避難してきた19世帯33名に120回新鮮な野菜を提供してきました。

野菜を提供する中で、慣れない日本での生活の様子を見聞きし、時に困りごとや相談も寄せられています。「言葉がわからない」「エアコンがなくて暑い」「洗濯機を設置したけど水が出ない」「引っ越しを手伝ってほしい」「自転車がほしい」などのニーズにも一つ一つ対応してきました。このように「MOTTAINAIやさい便」を通じて顔の見える関係ができ、一人ひとりの声に丁寧に耳を傾けてきました。



【母子の引っ越しボランティア】

一人ひとりへの寄り添い

すでに帰国した母娘もありますが、避難民の多くは、先の見えない母国の戦争の状況の中、日本での冬を迎えようとしています。今も戦地で戦う父親を心配する20代の女性、サイレンが鳴るとSNSでの会話をやめ防空壕に避難する夫を想う30代女性、故郷をロシアに占拠され帰る場所を失った高齢者夫婦、日本で生きていこうと必死に語学を学ぶ30代女性など、避難民の方々の事情はそれぞれ違います。阪神・淡路大震災からずっと言われてきたように、一人ひとりに寄り添うことが求められています。



【リビウから避難された家族】

MOTTAINAIやさい便

CODEホームページのブログにて、MOTTAINAIやさい便ニュースを掲載しています。その中の一部を紹介します。

右写真は、Vさんと娘さんのZちゃん(6歳)に野菜を届けた際の様子です。Vさんに「元気?」と聞くと、「何とかね。毎日、仕事と育児で慌ただしく過ぎていくわ」と返ってきました。「日本人の友達はできた?」と聞くと、働いている幼稚園で英語のできる人がいて、「その人ぐらいかな」、そして「あなたで二人目よ」と言ってくれました。

ウクライナから避難してきて約4ヶ月。仕事と育児に追われ、友人もあまり出来ずに日本で暮らしているウクライナ人母娘がいます。「先のことではだれにもわからないわ」とVさんは言います。この言葉は、故郷ウクライナの状況や日本での暮らしが今も変わっていないことの意味ではないかと思えます。(8月10日)



【ジトーミルから避難された母子】



高野史織さん(園田学園女子大学3年生)がMOTTAINAIやさい便のボランティアに参加されました。やさい便には学生ボランティアも関わっていて、野菜を届ける中でそれぞれが学びを得ています。以下、感想の抜粋です。

「今回の活動で、日本に避難してきたウクライナ人が何に困っているのか、何を求めているのか知ることができました。このような活動を1人でも多くの方にも知ろうとする姿勢を持っていただきたいと思えます」(6月21日)

ウクライナ・日本交流会

8月28日には「ウクライナ・日本交流会」を行いました。MOTTAINAIやさい便を通じてつながったウクライナの方や野菜生産者、CODE関係者など、総勢72名の方々が集まりました。野外でBBQやウクライナ料理をいただいたり、ゲームをしたり、最後は日本の歌と力強いウクライナの歌を皆で歌いました。ウクライナ、日本の方々の新たなつながりが生まれた場となりました。



農業フィールドワーク



9月24日にウクライナから神戸市内に避難してきている方及びその家族7名と丹波で稲刈りをしました。

2年前よりCODE未来基金の学生たちの農業フィールドワークでお世話になっている有機農家のグループ「ムラとマチの奥丹波」(通称ムラマチ)の主催で今年も稲刈りが行われ、ムラマチの関係者や学生さんも含め35名の方々と共に時間を過ごすことができました。参加者は、5月に手植えし、成長した稲を鎌で手刈りし、刈った稲を束ね、天日で干すために稲架掛け(はさがけ)しました。

参加してくださった方々は、「日本に来たときはビルがたくさんで、村の景色が恋しくて、日本の村の景色が見れてよかった」や「普段食べているものがどのようなプロセスでできているか知ることができた」などおっしゃっていて、それぞれが思い思いに農作業を満喫されていました。

稲刈りの後は皆でおにぎりなどの日本食を作り、サツマイモ掘りも体験していただきました。



冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★PDFに変換して入稿される場合★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

ウクライナ避難民の声を聴く

現在、CODEがMOTTAINAIやさい便を配達しているウクライナの避難民それぞれの状況や想いを伝えるために、私たち学生インターン生が5名の方にインタビューを行いました。インタビューの内容を一部抜粋して、掲載します。（インタビュー：CODE学生スタッフ 植田隆誠、島村優希、山村太一）



東灘区在住 Lさん
【出身地】リビウ州ソカル
【家族構成と滞在地】
夫（ポーランド）
娘と孫、息子夫婦（日本）
姉妹（ウクライナ）

娘と孫が日本に住んでいたため、リビウより息子夫婦と共に避難されました。

祖国の大切さに今になって気づいた

- MOTTAINAIやさい便についてどう思いますか？
- キュウリもトマトも芋もぜんぶおいしい。日本は世界一野菜の美味しい国なのではないかと思う。今では、野菜をきっかけに日本食や日本の農業についても勉強をしている。実は日本に来たときはお米が嫌いだったが、今はよく食べるようになった。本当に感謝している。
 - 困っていることは？
 - 当初は、異なるライフスタイルや高い人口密度などが原因で精神的にも肉体的にも辛かった。しかし、今は美しい日本に来られて良かったと思っている。日本語を勉強して日本について少しずつ理解していきたい。
 - ふるさとへ何か思うことはありますか？
 - 祖国の大切さに今になって気づいた。国の再建には長い時間がかかるが、ウクライナが領土を奪還し、勝利できることを信じている。兵士として戦地に赴き負傷した知り合いもいる。日本の皆さんも、愛する人に何かあったときには心の底から親切にするとことを大切にしてほしいと思う。今夜もウクライナ全土でロケット弾の攻撃があった。私の街の近くの発電所を直撃した。私が一番望んでいるのは、地球の平和。（植田）

何もまちがったことをしていないのに、朝起きたら始まっていた



中央区在住 Sさん、Mさん親子
【出身地】クレメンチューク
【家族構成】
夫、娘3人、息子
長女のみウクライナ滞在

Sさん祖母の知り合いが日本と関わりがあったため、日本に避難されました。また、Sさんの曾祖父は日本人です。

- どのようにして日本に来られたのですか？
- 私たちは日本に6月に来た。その前はルーマニアまで4日間900km運転した。たどり着くまでには沢山のチェックポイントがあって、誰がロシア人かウクライナ人か分からなかったから本当に恐ろしかった。寒期中、床で寝たり、ガソリンに5時間も並んだの。今、故郷はどのような様子ですか？
 - 一番上の娘が故郷にボーイフレンドと一緒に残った。彼女はボランティアでマスクを提供している。今ウクライナでは皆、上着で口元を覆って火の中に行っているから。あの子はいつも無事だって言うけど…日本でも警告は見られるから、娘が家の地下に避難できているか確認している。地下はサウナから避難場所に変えたんだ。最初の頃を覚えている。何もまちがったことをしていないのに、朝起きたら始まっていた。最初は正直信じていなかった。ウクライナは今団結している。お互いを支え合って、ボランティアがいるからこそ、私たちの軍隊は強く勇敢なんだ。私達は日本で出来ることとして、寄付をオンラインでしている。ウクライナが欲しいのは勝利による平和。
 - MOTTAINAIやさい便についてどう思いますか？
 - 野菜とフルーツは本当に高いから、健康だし、料理に沢山使っている。故郷のオープンとキッチンが恋しい。私達はここも愛せる家になりたい。ここでも家が必要だから。毎日ちゃんと生活したい。（島村）

大切なのは、一回きりの支援ではなく、支援を続けること

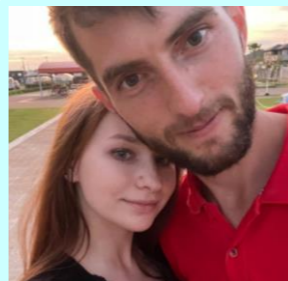


東灘区在住 VさんとZちゃん
【出身地】ジトミール
【家族構成】
夫（ウクライナ）
娘（日本）
姉（ジトミール）

日本在住の友達の誘いで日本に避難されました。

- 最近、生活はどうですか？
- すごく忙しくしていたの。富士山に行って、東京と神奈川から来た避難民に会った。神戸に戻って来て、娘と家に帰って来たという感覚ね。（娘さんを眺めながら）
 - 娘さんは日本での生活に慣れてきていそうですね。
 - そうね。でも私は娘がウクライナ語を忘れてしまわないように、彼女にウクライナ語を毎日教えているの。彼女がウクライナ語を忘れないといい。オンラインクラスも考えたけど、いいのが見つからなかった。そうなんです、今故郷の様子は？
 - 今は大丈夫なんですけど、一部の場所では電力不足が起きているから…あとウクライナのベラルーシに近い側に住んでいる人達は、次に何が起きるか分からないから国外に逃げるための書類をもう用意しているみたい。
 - MOTTAINAIやさい便で、野菜を届けに来るのはどうですか？
 - それが当たり前になっていて、YOSHI（吉椿）が来ないと、娘も「今日は誰か来ないの〜？」って言うの。最後に一言、何か伝えたいことがあれば教えてください。
 - 日本人はいつも優しく何かをくれるわ。でも大切なのは一回きりではなく、支援を続けることね。（島村）

もし出身地を選べるなら自分が育った街を選ぼう

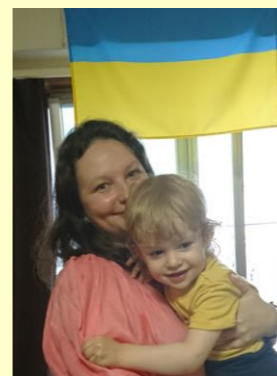


東灘区在住 Vさん、Sさん夫婦
【出身地】
Vさん：リヴィウ州ソカル
Sさん：ヴォリン州ルーツク
【家族構成】夫母、姉、妻（日本）
妻父（ウクライナ）

戦争前はポーランドに住んでいて、姉が日本在住だったため日本に避難されました。

- MOTTAINAIやさい便についてどう思いますか？
- V,S：MOTTAINAIやさい便にはとても助けられている。私達に対してこのような活動があることについて、本当に嬉しく思っている。
 - 日本での生活はどうですか？
 - V,S：日本での生活は、言葉も伝統文化も十分に分かるわけではないので、かなり難しく感じている。しかし、日本語教室などさまざまなプログラムがあるので、それによって助けられている。
 - 出身地はどのような場所なのですか？
 - V：出身地であるリヴィウはウクライナの文化の中心地であり、伝統と祝祭の町。
 - S：ルーツクにはウクライナ最大の花畑があり、城もあり、90年代からデザインが変わっていない美しい旧市街もある。
 - 出身の街はどのような存在ですか？
 - S：友人や親戚が今もそこにいる。街は永遠に私の心の中であり、私の人生において非常に大きく重要なもの。もし出身地を選べるとしたら私は私が育った街を選ぼうと思う。（植田）

日本は大好きだが、やっぱりウクライナに帰りたい



中央区在住 OさんとLくん
【出身地】ジトミール
日本在住の友達の誘いで日本に避難されました。

- MOTTAINAIやさい便についてどう思いますか？
- とても助かっている。息子も知らない人が来ることに興味津々。いつもありがとう。
 - 日本での生活はどうですか？
 - とても楽しい。ウクライナで日本の文化について勉強していたので、とても楽しい。特に、お茶文化や茶道、映画、文学、最近では生け花が面白いが、とても難しい。
 - 最近楽しかったことは何ですか？
 - 最近、京都に行った。着物を着させてもらい下鴨神社に行った。しかし、息子を見なければならぬので、あまりちゃんとは見られなかった。
 - 何か困っていることはありますか？
 - 息子のことをずっと見なければならぬこと。もっと日本語の勉強をして、仕事もしたいのだが、息子を見なければならぬので、どうしても時間をとることができない。息子のために、家族と離れて日本に来たが、一人ではしんどい。（山村）

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

高校生、避難民に 出会う



【高校生の感想】

実際にウクライナ避難民の方々と交流する中で生活が100%充実しているとはいえない現状を知った。「今生活の中で困っていることはありますか」という質問に対して「問題ない」と答えていたが、打ち明ける事ができない心の悩みがあったり、日々の生活の中で苦難があったりと多くの不安要素があることが伝わってきた。今後も、小さなことでも自分にできる形で支援に関わっていきたい。(島本紗羽)

今回ウクライナ避難民の方々に食品を届けてみて、率直に喜んでいただけて嬉しかった。私たちの拙い説明でも理解しようと聞いてくれる人ばかりで心が暖かくなった。1回きりの支援では意味がなく、定期的に支援し、話を聞くことが大切なのだ分かった。物資の支援も大切だが心のサポートも避難民の方には行っていかなくてはいけないと感じた。(神田奈美)



【概要】

Summer SDGs festival for Youthのイベント(10p参照)をきっかけに出会った立命館宇治高校3年生の4人と10月29日にウクライナの方々に食料品を配達しました。高校生の皆さんは、普段から各家庭にある余剰した食料品を集めて必要としている方々に寄贈する「フードバンク」という活動を行っています。今回は、それらをウクライナの方々に直接届けたいという思いから、MOTTAINAIやさい便を行っているCODEと共に4軒のお宅へ食料品を届けました。高校生が集めたスーツケース3つ分の食料品には、ジュースやお菓子、缶詰等がありました。中にはウクライナにはない食べ物もあり、高校生自ら食料品の説明をしていました。また、ウクライナ語での自己紹介や、事前に準備していた折り紙で子どもと遊ぶという場面も見られ、お互いに笑顔あふれる時間を過ごすことができました。



ウクライナのことをテレビで見ただけだったのでどれだけ大変な生活を送っているか知らなかったが、今回話を聞いて食事面だけでなく家族のことや家のことでも多くの問題を抱えていることを知った。今回は食事面だったが、また違う形でサポートできたらいいなと思った。(吉本真理子)

今まで身近に避難民の問題について考えることがなかったが、実際にウクライナの方々と接する事でより深く考えることが出来た。特に、「食料を届けることがメインではなく、それは避難者の声に耳を傾けるツールである」という吉椿さんの言葉がとても印象に残っている。実際に自分達が食料を届けに行き、自国に戻りたい方や日本に滞在したい方その他にも1人1人異なった悩みを持っているなど感じた。こう言った事を知るためにもコミュニケーションを取ることの大切さを実感した。(奥田紗菜)

ウクライナスケッチ展



【概要】

11月28日～12月1日に新長田合同庁舎でウクライナスケッチ展を行いました。ウクライナの戦争前の美しい街並みや破壊された様子を描いたスケッチは、国境なき災害支援隊の曹弘利さんの描かれたものです。絵を通じて、訪れてくださった神戸市民の方々に戦争の現状やウクライナへの関心を広げることができました。また、11月30日には吉椿より避難民の現状やCODEの取り組みについての講演が行われた後、絵本作家のだるま森さんより平和を祈る楽器の演奏が行われました。



【講演会の様子】

MOTTAINAI = 勿体ないを上げよう!!

CODEは2021年5月より、神戸市内で活動する子ども食堂や外国人の留学生のゲストハウス、および中国、ベトナム、ネパール、インドネシア、ミャンマー、アフガニスタンなどからの難民や技能実習生や各々のコミュニティなどに、「MOTTAINAIやさい便」を届けてきました。加えて、2022年5月より週1回神戸市内で避難生活をされているウクライナの人たち(19世帯)にも届けています。

さて、MOTTAINAIやさい便の「MOTTAINAI」とは、「農家の方が苦労して育てられた野菜を捨てるなんて、もったいないですよ!」と、本来日本語にある「勿体ない(過分なことで、畏れ多い)」という農家さんに敬意を表す言葉です。なので規格外品やフードロス、廃棄処分の対象として扱われる「野菜」は、あまりにも「可哀そう」です。食べるには、何の問題もなく、美味しくて、新鮮な野菜なのです。

他方、野菜を提供して下さる農家さんの周辺にも応援団が増えつつあります。みなさんウクライナのご心配で、毎週定期的に届けて下さる農家さんの他にも、「少しでも力になれ

ないか?」と、例えばウクライナの伝統料理として周知のボルシチには欠かせないピーツを、ワザワザ北海道から購入して提供して下さったり、週一の配達日に毎回数千円の寄付をして下さったりと、どんどん支援の輪が広がっています。

ほんとうに「勿体ない」ことです。農家さんの中には、借りている市民農園の一部を、ウクライナの人が自ら野菜を栽培できるように提供して下さったり、また27年来のおつきあいのある長崎の仲間からは、柿やお米を再々送って下さったり……、とびまつ中学校菜園(神戸市須磨区)で野菜を育てている皆さんも、新鮮な野菜を提供して下さったり……。こうした皆様には、「足を向けて寝たら罰が当たるわ!」と、「勿体ない」が広がりがつつあるのです。特定技能実習生として、介護施設で働いているネパールの人たちは、ペットボトルを活用した募金箱を置き、ウクライナ支援として1円、5円、10円などを貯めて下さっています。ほんとうに「勿体ない」ことです。(CODE理事 村井雅清)

「MOTTAINAIやさい」の提供

ムラとマチの奥丹波(岸下正純、近藤悦生、奥川陽、嶺尾洋人、山本健一)、橋本真司、井上陽平、農の学校(丹波市)、ジコモファーム(杉田かなえ)、中末智己(丹波篠山市)旭芳郎(長崎県島原市)、河崎紀子、満田里美、山林芳郎(たつの市)、武内郁子(明石市)

松下かず子(養父市)、高木農園(神戸市)、暮らしの学校農楽(の〜ら)(豊岡市)、とびまつ中学校菜園活動、みずほ農園(社長はじめ職員の中村由美ほかパートの農家さんたち)、村上ファーム、伊藤陽子(神戸市ポケトーク)、澤北利大

いつもご協力ありがとうございます。

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

2021年度事業報告 & 2022年度事業計画

海外災害地への支援事業

【アフガニスタン救援】

2021年8月15日にイスラム主義勢力タリバンがアフガニスタン全土を制圧したことで、12万人以上の人たちが国外へと退避しました。カウンターパートのFさん家族も身の危険から国外退避を求め、CODEも情報提供などのサポートを行ってきましたが、未だ実現できていません。よって2015年から輸入しているレーズンの輸入ができなくなりました。

また、神戸市内に退避してきたSさんへも「MOTTAINAIやさい便」の提供を通じてアフガニスタンの状況をヒアリングするなども行ってきました。

2022年度も、現地のFさん家族の状況を見守りながら、レーズンの輸入再開に向けて動きまわります。また、神戸で暮らすSさんとその家族の状況も見守っていきます。

【ウクライナ避難者支援】

*特集を参照

【中国・四川大地震】

2021年度も中国の新型コロナウイルス感染症の拡大により四川大地震の被災地に渡航することはできませんでしたが、コロナ禍で四川のNGOと設立した国際アライアンス「IACCR」を通じて、災害や感染症対応の研修(6回)をオンラインで実施しました。

2022年度は、コロナの感染状況を鑑み、現地に渡航し、四川大地震プロジェクトのその後をモニタリングします。また、中断している日中NGOボランティア研修交流事業もコロナの状況を見て再開し、若者が被災地で学ぶ機会を提供していきます。

【トンガ火山噴火】

*右プロジェクトレポートを参照

人材育成事業

【CODE未来基金】

2021年度は、丹波農業フィールドワークを3回実施し、のべ19名の若者に農業を学びながら地域や食の安全、海外について学ぶ機会を提供しました。また、この農業フィールドワークを機に、丹波などの規格外の有機野菜を、コロナで困窮している子どもたちや在住のベトナム人、外国人留学生や技能実習生、アフガニスタンからの避難者などに、未来基金の学生たちと共に提供してきました。その他、学生たちの企画で子どもたちを対象に食育のイベントを開催したり、ベトナム寺院の住職を講師とした技能実習生の置かれている現状の勉強会、アフガニ

スタンやハイチの農業、フィールドワークなどに関する勉強会も開催しました。また、近畿労働金庫とのコラボで寺子屋セミナー「若者と難民について考える～多文化共生社会の実現に向けて～」(2回)を開催し、約60名の方にご参加いただきました。中尾秀一さん(アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部長代行)、平野雄吾さん(共同通信エルサレム支局長)のお二人を講師に、世界の難民、入管施設の問題などについて考えました。

2022年度も、丹波での農業フィールドワークやウクライナ避難者支援「MOTTAINAIやさい便」、難民セミナーの開催など、未来基金の若者たちを中心に進めていきます。

国内外のネットワーク構築事業

2021年度も例年通り、関西NGO協議会に理事参画し、国際協力NGOのネットワーク構築やSDGs推進、NGO-JICA協議会コーディネーターを担ってきました。コープこうべとは、ハート基金を通じてトンガ火山噴火支援や100周年記念事業でのコーディネーターや講義などで協働しました。近畿労働金庫とは、社会貢献預金「笑顔プラス」の寄付を未来基金の活動に活用させていただき、CODE寺子屋「若者と難民について考える」を共同で開催しました。その

他、神戸学院大学、親和女子大学、龍谷大学、兵庫県立大学、追手門学院大学、関西国際大学、大阪大谷大学、関西学院大学、神戸女子大学、舞子高校、尊合高校、神戸工科高校、神港橋高校などの講義でも連携しました。

海外では、中国、フィリピン、インドネシア、ネパールのNGOなどのネットワークと継続的に連携してきました。2022年度も上記のような国内外のネットワークと連携し、災害対応や事業を進めていきます。

アフガニスタン救援プロジェクト

2021年8月15日にイスラム主義勢力タリバンがアフガニスタン全土を制圧し、「アフガニスタン・イスラム首長国」の樹立を宣言しました。タリバン復権による圧政を恐れた12万人以上の人たちは国外へと退避しました。CODEと共に長年ぶどう畑再生プロジェクトを担ってきたRさん(2017年に逝去)家族の三男Fさんも家族と共に国外への退避を希望していたことから、CODEもベルギーや日本などの情報提供などをサポートしてきました。

また、関西NGO協議会を通じて外務省やJICAへも日本への難民受け入れなどを提言してきましたが、未だ実現することができずにFさん家族はアフガニスタンで息を潜めて暮らしています。よって現地からのレーズンの輸入ができなくなりました。

また、日本政府の支援で神戸市内に退避してきたSさんへも「MOTTAINAIやさい便」の提供を通じてアフガニスタンの状況をヒアリングするなどを行っています。

CODEは、引き続き現地のFさん家族の状況を見守りながら、レーズンの輸入再開に向けて動きまわります。また、神戸で暮らすSさんとその家族の状況も見守っていきます。

以下、タリバン統治下で息を潜めて暮らしているアフガニスタンの一人の若者Fさんのメッセージをご紹介します。このメッセージを読んだCODE未来基金の大学生は、「日本とは状況は全く違うけど、どこか似ている」と危機感を語りました。Fさんのいう自由、平等は日本にあるのか？

F・Lさん(23歳)

アフガニスタン市民がこのような状況に陥って、人々の倫理と行動が変化したという重要な問題に私は気づきました。彼らは、もはや親切で思いやりがあり、友好的ではありません。この件が起きる前は、アフガニスタン人は互いに愛し合い、尊敬し合っていました。・・・しかし、今、このような特徴は薄れています。・・・若い世代の母国への関心を低下させています。彼らは、自国に希望や愛、信頼を持ってなくなったので、国外退避をしています。最近、若者はうんざりしています。国外退避は彼らにとって競争のようなものになり、彼らは国を離れることができる人が、勝者であると考えています。・・・

主要な問題は、将来の希望が衰退し、彼らが人生、生き方について決定を下すことができないことです。彼らは、身体的だけではなく精神的に弱っています。

彼らには、お金や食料援助だけではなく、彼らが望むこと、期待することが達成できるという見込み(期待)や信頼を与えることによるモチベーションが必要です。

・・・(今のアフガニスタンには)平等、自由、民主主義は存在せず、考慮されていません。安全とは、泥棒や誘拐犯が捕まって投獄されることを意味するのではなく、政府の決定に反対して自分の信念を貫く権利がないということです。

*詳細は事業報告、事業計画を参照

トンガ火山噴火災害救援プロジェクト

2022年1月15日、南太平洋の島国トンガ王国の北約65kmの海底火山が噴火しました。本島のトンガタブ島など複数の島で津波や火山灰の降灰被害が発生しました。島民約2400人が住む場所を奪われ、飲料水や農作物に大きな被害を出しました。トンガでは、新型コロナウイルス感染症の拡大でロックダウンを行っていたことで、外部からは入

国できずに救援は困難を極めました。

CODEは、様々なネットワークを通じて現地の農業経営者Minoru Nishiさん(日系3世)と出会い、彼を通じて現地の被災農家たちの農業再開のために、スイカ栽培用のウォーターポンプを3基提供することができました。



【降灰で枯れたコーヒーの木】



【CODEが提供したウォーターポンプ】

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★PDFに変換して入稿される場合★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

CODE未来基金NEWS

Summer SDGs festival for Youth

8月21日Summer SDGs festival for youth (関西NGO協議会主催)にCODEのブースを出展しました。4名の学生ボランティアと共に、SDGsと災害の関連性の説明やCODEのこれまでの取り組みの紹介などを行いました。

各ブースを回っている高校生や大学生などの若者達は目を輝かせながら、熱心に話を聞いて回っていて、SDGsに対する関心の高さや学ぶ意欲に感心させられました。また、出展をしていたSDGsに関連する学生達の取り組みも大変興味深いものが多く、改めて次世代の力の大切さを感じました。



CODEインターン・アルバイト紹介



皆さんこんにちは！10月からインターンをさせて頂く事になりました関西学院大学総合政策学部国際政策学科3年の植田隆誠です。好きな食べ物はサンドвичです！

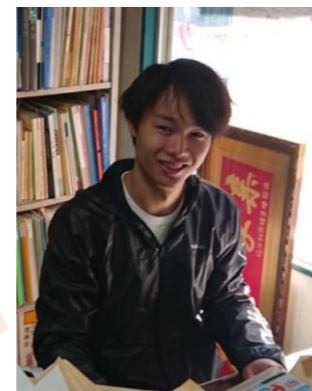
国際協力の答えのない問いに対して考えるところに魅力を感じ、大学は国際政策学科に進みました。災害については、大学1年生の時に熊本地震現地ボランティアに参加してから学生団体等で活動しています。その中で、吉椿さんに講演をして頂いたことがきっかけでCODEを知り、インターンをさせて頂くことになりました。

1. 1からプロジェクトを作り上げるプロセスを学び、実践出来るようになる。
2. 社会問題について海外の事例を含めた広い視点から考える。この2つが私の抱負です。よろしくお願ひ致します！

今年の9月からCODEでアルバイトをさせて頂いている、神戸学院大学現代社会学部社会防災学科4年生の山村太一です。好きな食べ物は唐揚げです！

私がCODEに関わるようになったきっかけは、中学生の時に「プロフェッショナル 仕事の流儀」に出演していた吉椿さんを見たことです。その後、高校でも大学でも何度か講義をしてくださり、CODEの活動に興味を持ちました。大学でも防災を主軸に国際協力を学んでおり、漠然と将来もそれらに関係している仕事に就きたいと考えていた時に、吉椿さんからお声がけいただきCODEでアルバイトをすることになりました。

アルバイトでは、NGOがどのような仕事をして、どのような想いで姿勢で取り組んでいるのか肌で感じ、吸収したいです。CODEでの活動を通し、たくさんの国、文化、人々に触れ、自分の目で世界を見て、日本を見たいと思います。よろしくお願ひいたします。



こんにちは、インターン生の大阪大学人間科学部の島村優希です！猫好きです。

私が最初にCODEに関わり始めたきっかけは、CODEのMOTTAINAIやさい便のボランティアに参加したことです。その際実際の現場に行き、CODEが野菜を届けつつ、交流を通して、新たに必要の支援を見つけている様子を見て、私もそのように一人一人を大切にしたいと感じました。

インターンでは、まず今の支援の現場と関わる中で、社会においてどのような支援が必要とされているかを自ら見つけていき、自分やCODEで出来る取り組みを考えたいです。また、NGOとしてどのように国際協力ができるのかを間近で見て、実際に自分も運営側に立つことで、自分のしたい国際協力とは何なのかについて見つけていきたいです。これから宜しくお願いします。



ユースのための国際交流オンライン・スタディツアー ～国と国をつなぎ、出会いを通して学びを共有しよう～ 中国編

The Legend: Emperor Yu Combating Flood

大禹治水



【中国の学生による中国の災害の紹介】

開催概要

「ユースのための国際交流オンライン・スタディツアー ～国と国をつなぎ、出会いを通して学びを共有しよう～」

日時：2022年10月16日(日)

14:00～17:00

開催：ZOOMによるオンライン

対象：日本・中国の高校生・大学生

主催：関西NGO協議会

協力：CODE海外災害援助市民センター
日本災害救援ボランティアネットワーク (NVNAD)

感想 (抜粋)

- ・更に中国のことについて学び、実際に中国を訪れ、現地のNGOやNPO、ボランティアの方と交流したいという思いが強まった。
- ・よそはよそ、うちはうちと勝手に自分の中で線引きをしてしまう考えこそが地球規模で考えるSDGsの課題解決に遠ざかっていると感じた。
- ・これから先もコロナ等の事情により、ボランティアに行くべきか迷う時があるかもしれないが、その時は、被災者の意見を前提に、まずは行くペースで考える事が第一歩なのではないかと思った。

〇〇と国際協力「農業と国際協力」



今年も「農業と国際協力」と題して「〇〇と国際協力」が開催されました。講師は杉田かなえさんと森本莉永さんに登壇していただきました。それぞれの活動紹介後のクロストークではお互いの共通点や疑問点について話し合い、参加者からの質問コーナーでも多くの意見が飛び交いました。お二人は「よそ者」という立場から地元の方々と一緒に農業に取り組まれています。そこにはデメリットだけではなく、気にせず何でも聞ける、聞いてくれる関係ができるというメリットもあること等を学びました。実際に現地で活動されているお二人だからその内容が盛り沢山の2時間となりました。

開催概要

「〇〇と国際協力2022 農業と国際協力
～若者から見た世界～」

講師：杉田かなえさん (ジコモファーム
代表、JICA海外協力隊OG)

森本莉永さん (豊岡市地域おこし
協力隊、JICA海外協力隊待機隊員)

日時：2022年11月14日(月)

19:00～21:00

開催：ZOOMによるオンライン

主催：CODE未来基金
CODE海外災害援助市民センター

感想

- ・よく「魚を与えるのではなく魚の釣り方を教えるべき」と言われるが、お二人のお話では更にその上の「釣り方自体を考えられる人を作る」という言葉があった。釣るための思考力から育てることで、その根本に気づかせ、農業を通じた自己実現に繋げるという意識はお二人共に共通していても印象に残った。本来の魅力を見つめ直すことが、今後の農業の新しい形につながるのではないかと思う。(植田隆誠)
- ・セッションの最後では今後の農業の在り方として、大規模農家が進められつつも、二種兼業農家などの多様なあり方も増えていく可能性を指摘されていて、そのような様々な農業の在り方を持つことで、遠い存在に見えていた農業が少し近くに感じ、もっと興味関心を持つ人が増えていくのではないかと思った。(島村優希)

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

CODE寺子屋2022「若者と難民について考える」 今、世界で起きていることに私たちはどう向き合うのか ～ウクライナ・アフガニスタン・ミャンマーから見える日本～

2022年2月24日、ロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻により、多くのウクライナ市民が隣国などへ避難しました。日本に避難されてきたウクライナ「避難民」に対して、日本政府は身元引受人がなくとも短期滞在を許可し、就労可能な特別措置などの支援策を表明しました。一方で、2021年のミャンマーでの軍事クーデターやアフガニスタンでの政変でも多くの市民が危機的状況にあります。ウクライナのような特別措置や民間の動きはほとんどありません。今、世界で起きているウクライナやアフガニスタン、ミャンマーをとおして、難民認定、出入国管理、多文化共生など、私たちの足元の問題に対してどう向き合うべきか、若者と共に考えました。

開催概要

第一回「難民、避難民に対して市民・NGOは何ができるのか」

日時：2022年8月7日（日曜日）10：00～12：00

講師：折合徳正（パスウェイズ・ジャパン代表理事）

田中圭子（RAFIQ 在日難民との共生ネットワーク 共同代表）

開催：対面（こうべまちづくり会館）およびzoomによるオンライン開催

参加者：49名

第二回「日本における難民の保護は適正か

～ウクライナ、アフガニスタン、ミャンマーから見える日本の保護のあり方～

日時：2022年9月16日（金曜日）18：00～20：00

講師：渡邊彰悟（全国難民弁護団連絡会議代表 弁護士）

開催：zoomによるオンライン開催

参加者：40名

主催：CODE海外災害援助市民センター

CODE未来基金

共催：近畿労働金庫、関西NGO協議会

後援：神戸新聞社、生活協同組合コープこうべ

第1回 難民、避難民に対して市民・NGOは何ができるのか

○参加者 49名

難民支援の最前線で活動されているNGOのお二人をゲストに日本の難民政策などの様々な問題点をご指摘いただきました。ワークショップでは、「なぜウクライナだけなのか?」「あなたの友達が難民だったら?」をテーマに参加者の皆さんでディスカッションをすることができました。難民、避難民の受け入れや難民認定の支援活動に従事してきたNGOの視点で私たち市民に何ができて、何ができないのかを考え、参加者全体で共有しました。

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

参加者の感想（抜粋）

「私は話を聞くことしかできないから情けないな」と、難民セミナーを受けるまでずっと思っていた。ディスカッションで「もし友達が難民だったら何が出来る?」について話し合い、私の友達のことを話したら「話を聞いてあげることは大切ですよ。目を背けていない証拠です。それに、信頼している人にしか話さないようなことですから、これからはきちんと耳を傾けてあげてください」と言われて、自分がしていることは間違っていないのだと確信し安心することができました。(20代女性)

ミャンマーの軍事弾圧やアフガニスタンの問題も依然として残っている中で、報道されていないが故にそういった情勢が目立せず、結果的に受け入れが進まないのはどうにも不自然です。(20代男性)

支援が半年間しかないことや難民申請書は28か国しか対応しておらずウクライナ語には対応できていないことなど、もっと国民全体がこの事実を知り声を挙げる必要があるのだと感じた。(20代男性)

メディアの情報を鵜呑みにするのではなく自分で考え本質を掴むことの大切さを学んだ。(20代男性)

第2回 日本における難民の保護は適正か ～ウクライナ、アフガニスタン、ミャンマーから見える日本の保護のあり方～

前回の講師2人が現場で実際に目に見える支援活動を行っている方々だったのに対し、今回の講師の渡邊彰悟さんは、「人権」という直には目に見えないものを保護しようと邁進している方です。これまでのセミナーで、日本の難民認定はハードルが高いことは学びましたが、なぜ高いのかを学び日本が抱える課題に触れることができました。そして、今後、足元に広がるグローバル化に私たちは、どのように対応し、どうしたら共に生きていけるのかを本気で考えなくてはならないと思いました。(山村)

参加者の感想（抜粋）

・今回の講義で実感したのは、「法の支配」の原則が世論にまだまだ浸透していないことだ。憲法>条約>法律>その他政令という構造上、難民認定を行う際難民条約の入管法は難民条約の規定に反してはいけない。にもかかわらず、拘束力の有無で条約を遵守しない姿勢は、国際社会でやり取りを行う上ではすぐに正さなければならない。難民条約を批准すると決めたのなら、その姿勢を一貫する。このことが世論に共有されることが、難民政策の第一歩ではないか。(20代男性)

も低いというデータや人権が脅かされるような事例が世に出ており、そのような根拠が山ほどあるのにも関わらず、その日本の問題に声を上げる人が少なすぎることに強い疑念を抱きました。このような問題は日本人の「無関心」の姿勢が根本的に関わっているという意見もあり、私はこの姿勢が日本の高校生にも定着しつつあると思いました。私は、まだ「無関心」の姿勢が完全に定着していない若者に対して、日本を客観視し、問題を把握して、声を上げることを当たり前出来るようにアプローチすることが重要だと思います。その一歩として、まずは高校生である私が多くの知識を身に付け、その上で、実際に活動しておられるNGOさんなどと協力して若者への発信方法を考えられたらいいなと思いました。(10代女性)

・私はこのセミナーで、難民の方への日本のずさんな対応が表に出なさ過ぎているということを知り、衝撃を受けました。また同時に、難民認定率が圧倒的に他国より

～全体を通して～

昨年4回の「難民」のセミナーを開催してきましたが、通底して学んだのは、「難民問題はどこか海外の、外国人の問題ではなく私たち日本の問題であること」でした。難民の問題が今私たちの暮らしと地続きであるということを知り、一人一人が学びを変えていく必要があるということを知り考える貴重な機会となりました。

ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた講師の皆様、関係者の皆様、共に考える貴重な機会をありがとうございました。(吉椿)

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

スタッフ活動記録

活動記録	
4/28	桃山学院高校生に講演(吉椿)
5/6	関西NGO協議会常任理事会に出席(吉椿)
5/10	コープ深江「アフガニスタン20年」で講演(村井理事)
5/14-15	丹波農業フィールドワーク
5/20	関西学院大学で講義(吉椿)
5/21	関西NGO協議会総会に出席(吉椿)
5/24	神戸学院大学ボランティア論Ⅱ第6回で講義(頼政さん、吉椿)
5/25	近畿ろうきんラジオカフェ「KYOTO HAPPY NPO」に出演(吉椿)
6/11	CODE理事会・総会
6/15	コープこうべ総代会に出席(吉椿)
6/16	岩手日報チリ地震取材(吉椿)
6/17	近畿ろうきん寄付先団体報告会で報告(吉椿)
6/24	関西NGO協議会常任理事会に出席(吉椿)
6/25	兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義(吉椿)
6/29	大阪大学人間科学部人間科学科(宮本先生)で講義(吉椿)
7/7	アフガニスタン退避者誕生日会を開催
7/9	「オーガニックのつどい」(コープこうべ)でウクライナ募金の受け取り(吉椿) コープこうべ・コープ須磨組合員研修「アフガニスタンから20年」で講演(村井理事)
7/28	関西NGO協議会理事会に出席(吉椿) CODEクラウドファンディングワーキングを開催 (室崎代表、宮本副代表、村井理事、榎木理事、黒瀬さん、吉椿)
7/31	ワンネススクール(石川県)保護者の会で講演(吉椿)
8/2	ワンネススクールの子どもたちに講演(吉椿)
8/7	CODE寺子屋「若者と難民について考える」第1回を開催 (村井理事、立部さん、山村さん、山口さん、黒瀬さん、高野さん、吉椿)
8/21	サマーSDGs for Youthでブース出展(高野さん、山村さん、黒瀬さん、島村さん、吉椿)
8/26	JPFウクライナ支援報告会に参加(吉椿)
8/28	ウクライナ-日本交流会を開催 (村井理事、山村さん、山口さん、高野さん、島村さん、佐野さん、吉椿)
9/4	JANIC主催『アフガニスタンからの退避者の実情にせまる』オンライン視聴(村井)
9/14	近畿ろうきん職員研修で講演(吉椿)
9/16	CODE寺子屋「若者と難民について考える」第2回を開催(村井理事、黒瀬さん、立部さん、吉椿)
9/21	NGO-JICA協議会に出席(吉椿)
9/22	CODE理事会
9/24	丹波農業フィールドワーク(ウクライナ支援)を開催 (ウクライナ避難者、ムラとマチの奥丹波の皆さん、島村さん、立部さん、吉椿)
9/29	関西NGO協議会理事会に出席(吉椿)
9/30	KANSAI-SDGs市民アジェンダ座長ミーティングに出席(吉椿) ポストSDGs勉強会に参加(吉椿)
10/7	NHK「ニュースきん5時」(ウクライナ避難民支援)に出演(吉椿)
10/16	関西NGO協議会「オンラインスタディツアー(中国)」を開催(吉椿)
10/17	Facilウクライナ避難者支援のヒアリング(村井理事、吉椿)
10/18	灘中学高校公民科授業で講演(吉椿)
10/28	立命館宇治高校生たちと未来基金のオンライン交流&ウクライナ避難者報告 (島村さん、植田さん、山村さん、黒瀬さん、吉椿)
10/29	立命館宇治高校生たちとウクライナ避難者支援コラボ(山村さん、植田さん、吉椿)
11/2	兵庫県人権啓発協会の取材(吉椿)
11/14	神港橋高校タウンミーティングで講演(吉椿) 農業と国際協力を開催(杉田さん、森本さん)
11/18	舞子高校で講演(山村さん、吉椿)
11/24	関西NGO協議会理事会に出席(吉椿)
11/25	CODE20周年プレ企画を開催(村井理事、柳瀬さん、山村さん、島村さん、山口さん、吉椿)
11/26	全国ネットワークNGOの集いに出席(吉椿)
12/1	JICA関西と打ち合わせ(吉椿)
12/18	ワンワールドフェスティバル for Youthに参加(吉椿)
通期の大学講義	
神戸学院大学「ボランティア論Ⅱ」(前期)、「社会防災特別講義Ⅱ」、親和女子大学「国際ボランティア論」	

会員・寄付者 ご芳名(50音順、敬称略)



2022年4月1日～11月15日

いつも応援してくださり、ありがとうございます!

【会費】中川和之、山崎達枝、榎木恵子、室崎益輝、宮本匠、藤原龍司、多言語センターファシル、神戸YMCA、阪井健二、渡辺知佐子、阿部好一、茂幾保代、アントニオ・マルゴット、鎌倉千俊、岸下正純、鈴木有、小林和子、山本正紀、細谷寛、芹田希和子、石井知代、田村快光、黒瀬晴世、江口節、貞好康志、久保陽子、鎮西貞子、兵頭晴喜、山崎清、本岡秀子、空野仁志、岩尾興一、山本八州雄、島本久嗣、市丸仁一、不破雅実、立部貴文、大津暢人、西保昇、井上由紀子、竹代一洋、長澤雄二郎、栗田啓子、小林貴子、山本健一、片岡幸彦、岡本誠、満田さとみ、山崎水紀夫、鶴飼卓、柴田康彦、山添令子、小林アイ子、岡田雅幸、村田昌彦、田中一正、清水有基栄、古川敏美、アートサポートセンター神戸、河知秀晃、遠周達子、小田尚子、今山朝枝、及川和子、安藤尚一、川中大輔、久保田浩子、NGO自敬寺、飛田雄一、大槻輝美、坂戸勝、永松寛喜、三原悠子、山田千恵子、平澤寿枝、中村大蔵、稲垣信一、加藤進弘、近藤悦生、山本あい子、萩原邦枝、竹内由美、石原凌河、相川康子、竹尾裕子、旦保立子、山田光、吉野恵子、高橋智子、住友直幹、湯原武彦、高橋朋世、武田かおり、宇田川規夫、北後明彦、宇都幸子、横溝文夫、吉永孝代、北浦和志、山本良治、山本佳子、上田耕蔵、津久井進、斉藤茂樹・敬子

【ご寄付】浅田瑞恵、林ひさ子、武田節子、山本彰子、伊藤マサカ、灘山光子、小林アイ子、大湊幹郎、岡田雅幸、村田昌彦、田中一正、五味芳道、小林貴子、立部貴文、今中由美子、鶴飼愛子、兵頭晴喜、石井知代、田村快光、市丸仁一、山本敬子、小林和子、亀田彩子、木下洋子、久保陽子、檀上詠子、渡辺知佐子、畑中裕子、田中圭子、江口節、空野仁志、鄭恵姫、管義正、三宅保昌、黒瀬晴世、井上由紀子、上柳幸子、桂光子、田波光子、柚原里香、柴田康彦、神原佳子、笹島晴美、藤下政雄、清水有基栄、チムヤダケイ、藤本範子、水野明代、高橋澄江、木村理恵、山田千恵子、太田美穂、高島要子、石田和子、奥山隆生、高井喜久治、萩原邦枝、松江直子、安田めぐみ、尾崎禮子、住友直幹、高野美智代、前田雄一、三原悠子、宮崎洋介、小寺弘子、吉野恵子、室崎益輝、有田実枝、上田文、相川康子、宇都幸子、西山淳子、横溝文夫、安達明孝、中里一実、國弘由美子、北浦和志、三原翠、木田タクオ、曾我部恵子、おーまきちまき、武田かおり、黒木ゆき、笠置りか、安富信、伊藤幸子、八百勘、山本孝太郎、原千栄子、高橋朋世、野田美奈子、榎木恵子、竹内千鶴、糸淳子、岡田重益、木下美根子、大垣圭子、横尾義春、ムラとマチの奥丹波、森下和子、ド)アン、舞子高校環境防災科、桐山照美、竹内由美、草地とし子、木下愛子

— CODE Supporter's Voice —

立部知保里さんより

大学院在学中に先生のご紹介でCODEと出会いました。2022年3月までスタッフとしてお世話になり、現在は事務作業やイベント等で活動のお手伝いをさせていただいています。大学院で地域復興や被災者支援について研究すると並行して、CODEの活動にかかわらせていただく中で、一人ひとりの声を聴くこと、地域を知ること、最後の一人まで支える

ことなど、大切な気づきや学びをたくさんいただきました。学び続け、そして学びの輪、支え合いの輪を広げていけるよう、今後とも微力ながらお手伝いさせていただければと思います。CODEの皆様、CODEをいつも支えてくださる皆様、ありがとうございます。

立部さん、いつもありがとうございます!

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

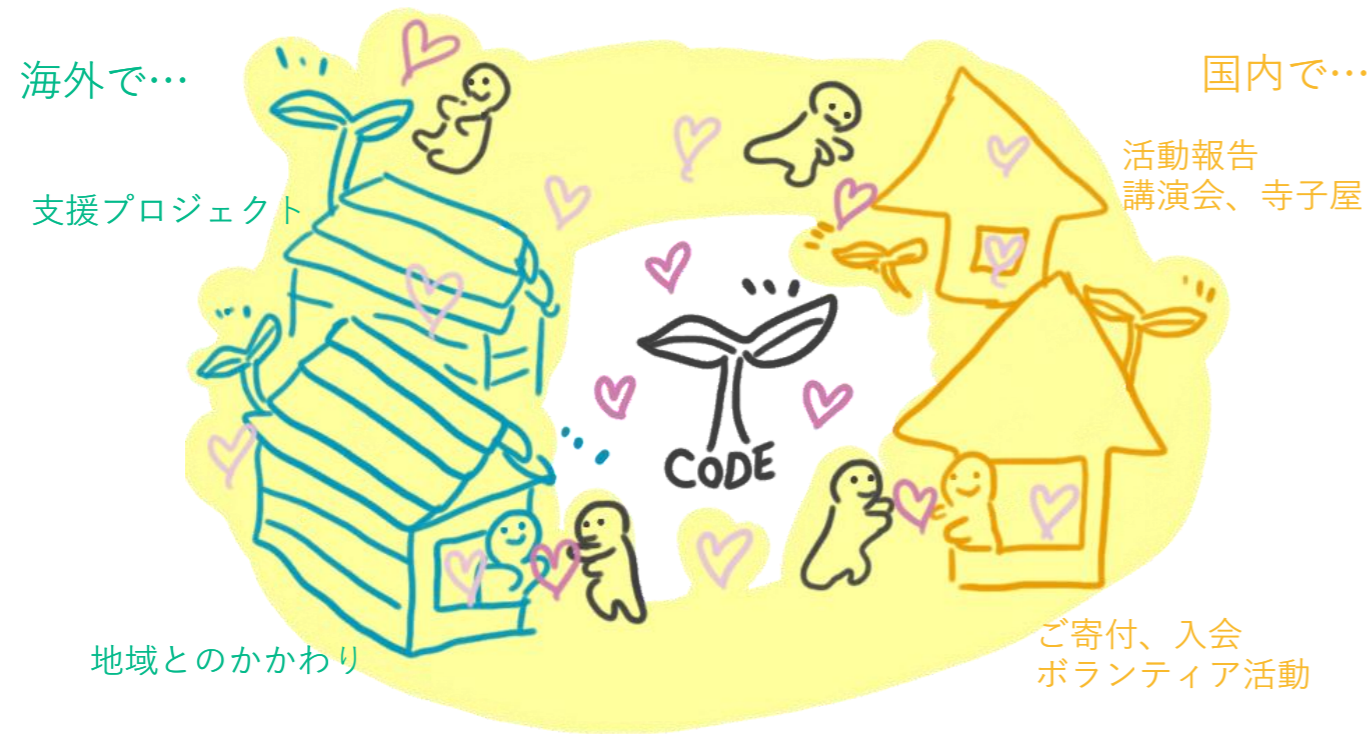
★★★PDFに変換して入稿される場合★★★
 「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

ご協力をお願い

みなさまからの応援があって、CODEは活動を継続できます。
お家から世界へ。CODEが支援のお気持ちを届けて、世界とあなたをつなぎます。



寄付して応援

活動を継続するためのご寄付です。
全体運営、特定の救援プロジェクトへのご寄付の指定も可能です。
25%を上限に管理運営費とさせていただきます。

ボランティアとして応援

事務所での作業や翻訳、自宅でも可能な作業などの
ボランティアを募集しています。
詳しくはCODE事務局までお問い合わせください！

知って・学んで応援

あなたの住んでいる地域で開催される講演会に
CODEスタッフを講師として派遣します。
テーマ・内容等、お気軽に事務局までご相談ください！

サポート会員になって応援

【正会員（総会での議決権あり）】

個人・学生 : 年会費 5,000円×1口以上
NPO/NGO : 年会費 5,000円×1口以上
企業・団体 : 年会費30,000円×1口以上

【賛助会員】

個人・学生 : 年会費 2,000円×1口以上
NPO/NGO : 年会費 2,000円×1口以上
企業・団体 : 年会費10,000円×1口以上

ともにCODEを創ってくださる方を
いつも募集しています

お振込み方法

■ ゆうちょ銀行
支店名：〇九九（ゼロキュウキュウ）
支店番号：099
口座番号：0330579

■ 近畿労働金庫
支店名：神戸支店
支店番号：642
口座番号：8881040（普通）
口座名義：CODE海外災害援助市民センター

【郵便振替】
加入者名：CODE
口座記号番号：00930-0-330579

【クレジットカード】
CODEのホームページより →
<https://code-jp.org/donation/>



※通信欄に用途をご明記ください。(例「ウクライナ」「賛助会員」)

発行元 (特活) CODE海外災害援助市民センター

〒652-0801 兵庫県神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-574-0702

E-mail : info@code-jp.org
HP : <https://www.code-jp.org/>



Facebook



Twitter



Instagram

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください